



集団登校

7月に入って、集団登校の指導に力を入れてきました。というのが4月以降の様子を見ていると、7時35分には登校するグループがあったり、バラバラで集団になっていないグループがほとんどであったり、班長中心に集団登校しているグループが2班くらいしかありませんでした。

私は不思議に思い、「何のために、集団登校をしているのですか。」と教頭先生に尋ねました。

すると、「本校は学区が広く遠くから登校してくる児童が多くいます。そのため、子どもたちの安全を考え集団登校をしている。」と教えていただきました。

そこで、集団登校は安全面以外にも、多くの教育の良さがあるのではないかと私なりに考えてみました。

5年生6年生が班長として自覚し、それが高学年としての自覚へとつながることで、また、班長としてまとめる力を育てることもできます。

友達を待ったり、一緒に歩いたりする時に小さい学年のペースを考えたりとやさしさや思いやりの心を育てることができます。集合時刻を守ろうと、朝の時間の過ごし方を考えることができます。また、話をしながら歩くことで異学年の横のつながりを作ることができます。それ以外にも、個々に多くの学ぶことがあります。

こんなに学習することが多い機会が毎日ある集団登校をやり多いものにしていきたいと思いました。

そこで、地域子ども会の時に「班長が先頭になり副班長が一番後ろで小さい学年を守って歩くこと、集合時刻の見直し、班長は時計を腕にする、バスの人は班長が先に降りて横断歩道を渡る、止まってくれた車に『ありがとうございます』の気持ちを込めて会釈する、出会った人には班長がまず『おはようございます』と挨拶をし、他の人は見習いましょう」という指導をしました。

すると、どうでしょう。翌日からあっという間に指導の成果があり、みごとに変わりました。たすきをしてくる班長も増え、まとまりの無い班が2班くらいと4月当初とは逆になりました。登校してくる子どもたちの顔が生き生きとしたように感じました。本当に素直な子どもたちに、感心すると同時にとてもいとおしさを感じました。

先生方のチームワークある指導とそれに素直に答えようとする子どもたち。本当に素晴らしい学校です。

見守りをしてくださっている地域の方からも、

「これまでは、見守りの場所に行くともう子どもたちが行った後で、バラバラな子もいて集団登校なんだろうかと思っていましたが良くなりましたね。」とお誉めの言葉をいただきました。

これからも、この素晴らしい集団登校をずっと本校の誇れる伝統としていきたいと思えます。どうぞ、保護者の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

